

## 2021 年度通常（第 2 回）理事会議事録

**日時：**2021 年 9 月 4 日（土） 13：00～16：30

**場所：**ZOOM を使用したオンライン会議

**出席理事：**（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、馬場益弘、中澤信夫、川北達也、大村雅一、富田三和子、望月宣武、平松隆、宮野幹弘、中村和哉、永井真美、中村隆夫、尾形依子、中野佐多子、橘田佳音利、関一人、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、加賀谷賢二、森田豊三、黒川重男、磯部君江、吉留容子、菊池邦仁、新田肇、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸

以上 32 名

**出席監事：**児玉萬平、上野保、紙谷雅子

以上 3 名

**オブザーバー：**安藤淳総務委員長、松田一隆財政委員長、柳澤康信広報委員長、増田開ルール委員長、大庭秀夫レースマネジメント委員長、金子純代キールボート強化委員長、八木達郎外洋計測委員長、服部好彦ジャパンカップ委員長、鈴木保夫参与、坂谷定生参与、斎藤渉参与、前園昇オリンピック強化副委員長、中村健次オリンピック強化委員、平出篤志外洋安全委員

### 議事の経過及び結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システム ZOOM を使用し開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加理事に確認し、議案の審議を下記のとおり開始した。

（定足数の確認）

理事 32 名中、出席者 32 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、2021 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、高間信行、宇都光伸の両理事が任命された。

河野会長から、新型コロナウイルスの影響で今回の理事会もオンライン会議の開催で顔が合わせられず残念だ。開催が危ぶまれていた東京オリンピックは沢山のセーリング関係者が参加しオール JSAF で無事に終了出来た。本日も活発な議論をお願いしたいとの挨拶があった。

### 〈審議事項〉

#### 1) 理事・監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂について

安藤総務委員長から資料に基づき、理事・監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂についての説明があった。

5、6月の理事会で協議したことを踏まえ、望月理事から最終案として定義するものである。今回の理事会でこの規定が承認されたら、12月から始まる次期役員候補者の選考について修正後の内規に基づき進めていく。補足説明を望月理事から行っていただくと発言があった。

望月理事から5、6月の理事会で協議いただいた内容を内規に反映させた。前回との変更点として7条（1）dの加盟団体、特別加盟団体に役員候補者の投票権を付与するが投票権付与の前提条件として前年度の12月31日までに加盟団体負担金を納付している団体かつ加盟団体の代表者として登録されている代表者がJSAFの会費を支払っていることを条件とした。この条件は前回の理事会で協議した4つの条件の中で最も賛成者数が多かった案をもとに作成している。その他、変更点はないが、今回は最低限の制度改正である。ガバナンスコードの観点から将来に向けて今後も時間をかけて選挙制度の改革が必要であると理事会内規の補足説明があった。

満場一致で承認された。

#### 2) JSAF 定期表彰について

安藤総務委員長から資料に基づき、2021年度JSAF定期表彰について説明があった。

定期表彰受賞候補者の推薦の依頼を各理事、委員長、加盟団体、特別加盟団体に案内するもので、スケジュールについては例年通りである。表彰は2022年の全国加盟団体代表者会議で表彰予定であるが、新型コロナウイルスの関係で前回と同様にオンラインで開催するか表彰形態は検討すると発言があった。

満場一致で承認された。

#### 3) JSAF 特別加盟団体申請(一般社団法人パラセーリング東京)について

安藤総務委員長から資料に基づき、JSAF 特別加盟団体申請(一般社団法人パラセーリ

ング東京)について説明があった。

運営規則に基づく、JSAF の加盟に必要な書類は前回理事会協議事項で説明した通りで、すべて揃っており、加盟の条件は整っていると発言があった。

満場一致で承認された。

#### 4) 支援寄附金制度における取扱承認の件（瀬川選手・池田選手）について

安藤総務委員長から資料に基づき、支援寄附金制度における取扱承認の件（瀬川選手・池田選手）について説明があった。

また、特別寄附金 1 件の提出があり、追加案件も含めて 3 件の承認をお願いしたい。詳細については、中村総務副委員長から説明していただくと発言があった。

中村総務副委員長から、前回理事会で支援寄付金制度が承認され、7 月 1 日から運用が開始された。強化の一環で瀬川選手、池田選手に従来の特別寄付での寄付であったが支援寄付金の内容に合致しており、支援対象 2 名と、寄付申請者と相談した結果、支援寄付金で取り扱うことになり、各選手から書類を提出していただいた。選手個人の強化寄付のため、常任委員会、オリンピック強化委員会に相談し、承認をいただき、先に各選手に寄付金を入金した。事後報告になるが理事会で承認していただきたい。今後の運用体制については可能な限り事前に承認を取れるように、事務局と総務委員会で協力をしていきたい。

また、中川副会長から特別寄附金としてレディース委員会に寄付の追加案件があった。使途が限定されている為、理事会の承認が必要なため審議事項としたと説明があった。

満場一致で承認された。

#### 5) 委員会委員長等の変更（事業開発、外洋計測、オリ強、国際、広報）について

川北専務から資料に基づき、委員会委員長等の変更（事業開発、外洋計測、オリ強、国際、広報）について説明があった。

事業開発委員会は平松隆委員長、外洋計測委員会は川合紀行委員長、オリンピック強化委員会は前園昇委員長へ変更届があった。また、国際委員会から萩原ゆき副委員長。広報委員会から望月宣武副委員長を選任申請があったと発言があった。

大村常務から、他の競技のオリンピック強化体制の新人事を発表する際は 2024 年のパリオリンピックへ向けた戦略、戦術などの考え方も公表している。オリンピック強化委員会についても行っていただきたい。別件になるが、東京オリンピックに出場する選手が決定した後に行ったルール講習会でフィン級代表の瀬川選手はレーザーの選考で落選

したが、急遽フィン級に乗り換え代表になった事を伝えところ参加者からフィン級の強化は行っていなかったのかと質問を受けた。2024 年は今回のような事のない体制をとって欲しいと発言があった。

満場一致で承認された。

## 6) 役員人事について

川北専務から資料に基づき、役員人事について説明があった。

河野会長から会長職の辞任届、中川副会長から副会長職と理事の辞任届、桑原副会長から副会長職の辞任届が提出され、8月25日常任委員会で受領したことを報告する。

3名辞任届が満場一致で承認された。

河野会長から、任期の途中で辞任で申し訳ない。東京オリンピックが昨年終わってれば、その段階で辞任する予定であったが、東京オリンピックが1年延びパリオリンピックまで3年しかなく出来るだけ早い段階で次の方に会長を譲りたいと思い、今回のタイミングとなった。私と桑原副会長はオリンピック、ワールドカップ等の決算の仕事があり、役職を辞任するが、理事として任期満了まで残ることにした。中川副会長においては、東京オリンピック終了まで、チャイルドルームなどの対応をしていただくこと前提に定年を延長し今日まで務めていただいた、副会長、理事退任することを常任委員会の承認を得た。

私事ではあるが2003年に副会長に就任し約8年、会長として約10年やらせていただいた。長い間、皆さまにお世話なり、心から感謝いたします。約18年間の中で、東日本大震災と東京オリンピックが特に印象に残っている。東日本大震災の際に、実際に現場に行った時は東北からセーリングの灯が消えてしまうのではないかと思ったが、東北の皆さまの頑張りに加えて、JSAF 会員からの募金、様々なセーリング団体からの支援物資の提供で何とか危機を乗り越える事ができ感謝している。東京オリンピックについては2016年大会の招致から携わって来た、1年遅れたが、先日無事に終了を見た。選手強化と運営体制構築のために、世界選手権、ワールドカップなど様々な国際大会を行うには莫大な資金が掛かると言う事で、日本セーリング連盟として初めてマーケティング活動を行い、何とか実行することが出来た。数々の国際大会、オリンピックは JSAF の総力を上げたイベントになった。コロナ禍で非常に世間から批判の多い中、無観客でも開催できたことは、関係者としてはありがたかった。1年遅れてしまい、申し訳ないが、馬場新会長と言う立派な方に後を託すことが出来る。馬場新会長はディンギーと外洋艇の一体化に強い信念を持っている。今後、更に強い JSAF になると思っている。最後に、関係者の皆さまには、言葉で表せない程お世話になったと感謝と発言があった。

中川副会長から、皆さま長い間ありがとうございました。秋田会長、山崎会長、河野会長と3代にわたり日本セーリング連盟の理事、副会長として務める事ができた。オリンピックが1年延び今日まで務めさせていただき、ありがとうございました。レディース委員会、理事の女性進出など後任の方に引き継いでいただきたい。オリンピックでのチャイルドルーム設置が夢だったが、今回の東京大会では残念ながら実現できなかったが、いつか実現して欲しいと発言があった。

桑原副会長から、オリンピック準備委員会の時に再度、挨拶させていただくが、75歳が定年で私自身75歳になりオリンピックまでは頑張ろうと思い務めてきた。副会長は辞任するが、理事として任期満了までしっかり働かせていただきますと発言があった。

川北専務から定款22条2項に基づいて、役員選任について動議を提案する。理事会の決議により、理事の中から役員選任する。新役員案は、会長に馬場益弘副会長、副会長に富田三和子常務、中村隆夫理事、(副会長1名欠員)、常務理事に望月宣武理事、なお、中澤信夫副会長、川北達也専務理事、大村雅一常務理事の3名は、変更はない。また、顧問に中川千鶴子副会長に依頼した。新役員について、1名ずつ決議され、全理事満場一致で承認された。

大村常務から馬場新会長は日本セーリング連盟の会長になられたので、外洋常任委員長を外れていただき、中澤副会長を新外洋常任委員長としたい旨、動議があった。

全員満場一致で承認された。

会長に指名された馬場益弘氏から、日本セーリング連盟会長への就任の挨拶があった。まず、2つの大きな目標を掲げたいと考えています。ひとつには「オリンピックで勝つ」こと、もうひとつは「生涯スポーツとしてのセーリング」です。まず「オリンピックで勝つ」ことについてご説明します。東京2020の振り返りにつきましては、すでにJSAFのホームページに河野会長と中村健次ヘッドコーチからメッセージが発出されておりますので、この場で私から申すことはございません。次のパリ2024を展望したときに、1.まずは早期に新体制のオリンピック強化委員会を立ち上げること、2.そしてそのオリ強が「牽引役」となるようにアドバイザーチームを作ることが急務と考えています。次回パリ大会は非常に特殊なオリンピックになると思います。まず、あとわずか3年しかないこと、セーリング人口の多いヨーロッパで行われるため他国はキャンペーンを張り易いこと、また、コロナで消化不良の選手が溜まっていること、そしてなにより、種目に大きく変動があること。具体的には、男女別470級が男女ミックス、ウィン

ドサーフィンが「iQ フォイル」という名前でフォイルする艇種になったこと、そして、準備を進めてきた「外洋ダブルス種目」が、これまで我々があまり力を入れてこなかった「カイト」という新たな男女別の種目に置き換わったこと、こうした理由でフリートが活性化しやすいという特徴があると分析しています。パリ五輪まであとわずか3年しかありません。すでにオリンピック強化委員会委員長の人選も進んでいます。それに加えて、ナショナルコーチの人選のアドバイス・諮問・答申をしていただけるアドバイザーチームを組成して「勝てる組織作り」をしていきたいと考えています。アドバイザーチームについて現在考えている詳細につきましては、改めてご説明の機会をいただければと思います。

次に「生涯スポーツとしてのセーリング」です。これについては改めて申し上げるまでもなく、息の長い「生涯スポーツ」としてセーリングを発展させていくことが、この競技の裾野を広げていくきっかけになるものと思っています。私も現役セーラーとしてレースに出っていますが、ジュニアから60代・70代・場合によってはそれ以上のシニアの現役セーラーもおられます。生涯スポーツとして考えると、セーリングには多様性があるという事実を我々自身が受容して推進していくことが重要と考えています。例えば、艇・種目の多様性について考えますと、オリンピック競技を見渡しても、外洋はパリでは不採用になりましたが、カイトが入り、同じ艇種でもフォイル化して、470級はミックスになるなど、艇種・艇の装備、はたまた乗り手も多様化してきています。さらにe-セーリングの様に実艇を使わないセーリングも出てきています。セーラーも多様化しており、セーリングでは女性が活躍するのはもう当然で、さらに障がい者の方々、社会人のセーラー、他のスポーツやマリレジャーからのセーラーもいますし、それらの方々への普及も重要です。まず、直ぐに取り組みたいと思っているのは、大学の学連活動でセーリングを終わりにしないということ。セーリングの楽しみ・奥深さは学生時代のわずかなセーリング体験では到底極められないことは、ここにいらっしゃる皆さんが実感されていることと思います。セーリングの楽しみ方についても多様化してきています。本格的なレースでも短期決戦のインショアレースだけでなく、世界一周レースなどで活躍する選手も出てきていますし、クルージング、クラブレース、ディセーリング、自作艇等々、セーリングには多くの楽しみ方があります。この様な多様性をもっているセーリングが、国民の皆さんの中でさらに普及していくには、子供も大人も、男性も女性も、社会人も障がい者の方も、他のマリンスポーツをしている人も、さらには一度ヨットを辞めたひとも、いつでもまた始められるような、始めるキッカケづくりや場づくりが重要だと思います。このような多様性を持ったセーリングなので、一人のセーラーにとっても多様性と柔軟性を持ったセーリング人生が送れるような仕掛けが必要と思っています。これについては、「セーリングをもっと楽しく」というJSAFの中期戦略立案プロジェクトがすでに走り始めていますので、このプロジェクトの中で議論を深めていきたいと考えています。

以上、「オリンピックで勝つ」ことと「生涯スポーツとしてのセーリング」の2点についての所信を表明させていただきました。

最後に、会長職を引き受けるにあたって「継承と発展」というキーワードで、皆さんと手を取り合ってこの組織を盛り上げていきたいということをお伝えしたいと思います。今までのJSAFの良さをしっかりと継承していきながら、新しいJSAFの姿を模索して発展させていくことが重要だと思います。まず、河野会長の下で推進してきた「環境問題への取り組み」と「障がい者セーリング」への取り組みについてはしっかりと引き継いで参ります。改めて申し上げるまでもなく、セーリングは自然環境の中で行うスポーツであり、環境の保全は重要な課題です。「残したいのはきれいな海」をキャッチフレーズに環境問題への取り組みを一層進めていかなければなりません。そして「障がい者セーリング」。残念ながら東京パラリンピックでは競技種目から外されてしまいましたが、World Sailing等とも協働して是非パラリンピックにセーリング競技を復活させていきたいと思っています。そしてそこで勝つパラ選手の育成も急務であり、それらを踏まえた体制作りが必要と考えます。スポーツ団体は、ややもすれば同じスポーツをする仲間構成されているため、これまでは身内の論理でことを進めてきたきらいがあります。しかし今や、世界中の会社・団体・組織でコンプライアンス遵守・ガバナンスの確立が求められております。スポーツ団体も例外ではありません。日本セーリング連盟のガバナンス・コンプライアンスの確立・維持・発展は重要と考えています。オリンピック後の組織改革、加盟団体の強化も急務ですし、オリンピック後の状況にあった財政・マーケティングなどの内政づくりも大切です。その際の視点は、「選手ファースト」「セーラー・ファースト」の視点でなければなりません。そして、それらを踏まえて、日本セーリング連盟を、日本中のセーラーがアイデンティティを持てる組織にしていきたい、そのためには「競技だけを考える団体」から「広くヨットの愛好者全体のための団体」へ転換していく必要があると考えています。京都在住の私が、東京に本部のある公益財団法人の会長職に就くことは、このコロナ禍が始まる1年半前には考えにくいことでした。ところが、リモート勤務は当り前の働き方になりましたし、会議をzoomで行うことはもはや常識になりました。その意味でも距離の壁は障害にはならない時代です。これからのヨット界をさらに発展させるべく、お伝えしたこと一つひとつの実現のために尽力していきたいと思い、河野会長の任期を引き継ぐ形で皆さんと手を取り合って、より良い組織に昇華していきたいという思いをここに、私の所信表明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたしますと発言があった。

富田新副会長から、副会長就任の挨拶があった。副会長の中では最年長ではあるが、分からないことが多いので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。馬場新会長のもと諸先輩方のご指導を仰ぎながらJSAFの組織力向上に努力していくと発言があった。

中村隆夫新副会長から、副会長就任の挨拶があった。桑原前副会長のように私は経験も実績もなく心もとないところではありますが、皆さんからのご指導を受け、出来る限り努めていく。馬場新会長の所信表明に少しでも貢献できればと思っていると発言があった。

望月新常務理事から、常務理事就任の挨拶があった。現在は、国際委員会委員長、広報委員会副委員長、e-sailing 委員会副委員長など色々な役職を兼務し、ここまでやって来たが、今回常務理事に選出いただいたのは若さと機動力で仕事をせよとという事だろうと思っている、なお一層セーリング連盟、日本中のセーラーのために仕事をしていきたいと発言があった。

河野会長から、大谷参与は JSAF の推薦でワールドセーリングのカウンセルになっている。本人との約束では東京オリンピックまでになっており、任期途中の交代にはアジア諸国の 7 割以上の賛成が必要で、しっかりやらないと日本からのカウンセルが無くなってしまいう可能性がある、現在、大谷参与と望月常務の間で調整を進めている。大谷参与がワールドセーリングのカウンセルを辞任し、そのあとを望月常務が引き継いでいく予定と発言があった。

以上、2021 年度通常（第 2 回）理事会審議議案についてはすべて承認された。

会長が馬場益弘氏に交代し、馬場会長が議長となり、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

## <協議事項>

### 1) 中長期戦略について

川北専務から資料に基づき、中長期戦略について提案があった。

5 月理事会にて普及領域に関するスポーツ庁提出のみ承認をいただき、6 月理事会で普及領域全般の審議および全体計画を協議した。今回の理事会では中長期計画全体を協議予定だったが、準備不足で実現できていない。2 月理事会では中長期計画全体を審議/承認できるよう進めていく。今回は一部変更点について協議いただきたい。

普及領域については承認いただき、2021 年度実行計画を進めている。強化領域については中長期戦略の検討については不十分である。オリンピック強化委員会でも検討していただいているが、未完成で 9 月末までには作成する予定であるはっきりとした時期は明確ではないが 12 月理事会では協議出来るようにする。組織/財政領域については戦略の中に入れてはならない、財政健全化プロジェクトの報告を受け皆さまの意見を聞き取り入れたい。12 月にそれぞれの領域を審議いただき、戦略統合案を 2 月理事会で審議承認していただきたいと考えている。



ガバナンスコードの適合性審査については、9月21日に1回目の審査を受ける。専務理事と総務委員長とで対応すると発言があった。

各理事からの異議はなく、次回の理事会で引続き、協議することになった。

## 2) 環境キャンペーン補助金制度見直しの件について

永井環境委員長から環境キャンペーン補助金制度見直しの件について提案があった。

現在環境キャンペーンは36の全日本のメジャーな大会で、申請があり、環境に配慮して運営した大会に対し補助金を支給している。地球温暖化防止、海洋プラスチックの削減のため自分達の事として本気で環境保全を考える事は急務である。現在横断幕を掲げて行う環境啓蒙が形骸化しつつあり、環境啓蒙活動の強化、スポンサー企業への継続対応策のための見直しをお願いするものである。方法は、現在の補助金額から一律2万円を減額、その代わり実行された環境活動1件に対し1万円補助金を上乗せする。

環境活動の例として、①シングルユースプラスチックの削減、②ゴミの削減、③サステナビリティ教育、④ビーチクリーン、⑤その他独自の活動。必須項目については以前と変更はなく、環境横断幕を掲示し環境啓蒙を行う。帆走指示書に海、湖にゴミを捨てた場合にはペナルティーあるいは支援艇への手渡し可を明記する。横断幕を含め、実際の活動については写真での報告を依頼すると発言があった。

増田ルール委員長から、必須項目の2について協議規則47の中にゴミの処分と言う規則があり、今回のルール改正で帆走指示書、レース公示で変更してはならない規則になった。「海、湖にゴミを捨てた場合にはペナルティーあるいは」の文言削除していただいた方がよい。競技規則の中に環境に関する規則が2つ明記されている。競技規則47のゴミの処分と基本原則の環境責任の2つであり、この規則の遵守を促すことを、主催者に考えていただくようにする。支援艇への手渡しの件についてはレース中でなければ、支援艇、コーチボートにゴミを渡すのは当然のことで、「運営艇にゴミを渡しても良い」と明記を行う必要はないのではないかと思うと発言があった。

桑原理事から、スポンサーであるヤンマー様は環境に関して非常に前向きに考えており、金額については、JSAFが考える以上に支援して下さるとのことと発言があった。

川北専務から、環境に対する配慮を他社やメディアにアピールし、活動しやすい環境作りが必要である。

森田理事から、企業の方針としては環境活動長く継続した事業としていきたい。今回の2万円を減らす理由は具体的な環境行動を促すためなのか、財源があるなら補助金減

らすのではなく、現状のまま加算制度にすればよいのではないかと発言があった。

永井理事から、環境の横断幕を使い写真を撮り、環境への配慮を促す形だけでは活動内容が足りないと思っている。具体的な活動として、ごみを減らす、環境の教育、ペットボトルを減らすなどしていただき、補助金の加算制度にしていく案なので今後考えていくと発言があった。

各理事からの異議はなく、次回の理事会で審議することになった。

## <報告事項>

### 1) 業務執行理事報告（アジア大会、JSAF-HP 変更他）

川北専務から資料に基づき、業務執行理事報告（アジア大会、JSAF-HP 変更他）について報告があった。

2026 年アジア大会が愛知県で開催が決定している。JSAF の窓口として望月常務にやっていただくことになっている。レースマネジメント委員会の中にアジア大会に向けた体制作りを行う。刷新された JSAF ホームページは、不備な点は引き続き改正していくと発言があった。

### 2) 会員増強プロジェクト報告

川北専務から会員増強プロジェクトについて報告があった。

現在、戦略的普及・マーケティングについて外部有識者からノウハウを得る為に進めている。体制としては理事をメインに委員会の方々に協力をしていただき進めていくと発言があった。

### 3) 財政健全化プロジェクト活動報告

松田財政委員長から資料に基づいて、財政健全プロジェクトについて報告があった。

東京 2020 大会が終了を受け、予算規模はオリンピック開催準備下のレベルから平常時のレベルに大きく縮小し、事業計画に沿ったうえで収支バランスを確保しつつ予算策定・実績管理を行なっていく必要がある。そのためにも、財政管理態勢のより一層の整備・適正化の取り組みが不可避である。財政健全化プロジェクトにおける議論に平行して 2021 年予算案策定の過程で各委員会に対しヒアリングセッションを実施済みである。ここで収集した意見・コメントも含め全体を 36 の課題に一旦整理する。そのうち、緊急性と重要性の 2 軸で 36 の課題を分類、整理した上で、優先順位が高いと思われる最優先事項を 6 つ特定した。課題の相互関連性について、2023 年までの時間軸の中でタイムライン案として可視化した。

2021 年、2022 年は、態勢整備に注力し管理基盤を強化している。会計経理の運

営・実務を安定化、東京オリンピック開催後の委員会間の業務の引継ぎ、オリンピック開催後の平常時予算規模に応じた収支バランスの見直し等、2022年以降は、新規事業への財政面への支援やこれまで未着手であった事項への対応を本格化していくとの発言があった。

#### 4) 総務委員会報告（2021年度JSAFコンプライアンス研修実施）

安藤総務委員長から資料に基づき、総務委員会報告があった。

2021年度JSAFコンプライアンス研修実施について、コンプライアンス研修対象者を想定しロードマップの作成を行った。今年度は理事、監事、専門委員会委員長、加盟団体理事長などの方々の受講を2年に渡り行ってきたが、まだ未受講の方もいるので、今年度中に全員が受講するよう案内をしていく。専門委員会の副委員長クラス、レースオフィシャルズ、指導者資格を持っている方、法人化を検討している団体の実務責任者の方にも案内を進めていく。来年度以降は順次拡大していくと発言があった。

#### 5) オリンピック強化委員会報告（東京2020オリンピック報告）

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、東京2020オリンピックについて報告があった。

委員長交代の承認、大村常務からのご意見、ご要望は当然の事だと認識している。今後、前園新委員長のもと、関係する方々と新体制を構築していく。委員長としてリオ、東京オリンピックと2大会に臨んだがメダルを獲得できず残念である。原因の究明、課題の分析は委員会で行っており、抜本的な改革が必要である。長年にわたりご協力の御礼があった。

中村健次監督から、まず、東京オリンピックへのご支援、応援の御礼があった。目標としていたメダル獲得が出来ず申し訳ありませんでした。オリンピックの報告書はJSAFホームページにアップした通りである。とにかくオリンピック開催できたこと、河野前会長のもと資金集めに発足した「日の丸セーラーズ」など多くの協力を得たことに重ねて感謝申し上げます。

報告書には記載できなかったが、4種目に入賞以上、メダルの可能性があった。レーザーラジアル級、RS-X男子には企業が海外のコーチを雇用し、チームの意見を尊重し、メダル獲得を目指していた。470級男女には、関一人氏、吉田雄悟氏がコーチとして強化を進めてきたが、メダル獲得が出来ず残念であった。自国開催のオリンピックという事で競技評価をして書類として残している10月中には形になる。本当にメダル獲得が出来ず申し訳ありませんでしたと発言があった。

前園新オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告について補足説明があった。

各国のメダルの獲得数を見ると圧倒的にヨーロッパの獲得が多い。馬場新会長の所信表明にもあったが、2024のパリオリンピックはマルセイユでの開催でヨーロッパ勢が集って練習しているので、ヨーロッパ勢のアドバンテージがある。東京オリンピックの総括、オリンピックが1年延期されたことに伴い、今後の日程が切迫している。今後については、すでに1年後に迫った杭州アジア大会、その半年後からは2024パリ大会の代表選考が始まり、そして2024パリ大会になり、すぐに気持ちを入れ替えなければならない。そのため、2024パリ大会に向けたオリンピック強化委員会のナショナルコーチ等の体制を、今までより前倒して構築すべく考えている。日程は、9月中に2022年度JOCコーチ公募を10月末までに締切り、11月の選定委員会にて審議、12月JSAF理事会に上程、従来活動を強化委員会内で総括したうえで、来る2024パリ大会および2028ロス大会までを視野に入れた強化計画を早々に策定する予定であるとの発言があった。

山田寛JOC専任コーチについては、8月末で企業チーム専属コーチへの移籍のため解嘱となり、後任の選出を行うとの報告があった。

中澤副会長から、JOCナショナルコーチとして4年間どのように活動し、コーチへの評価、総括も提出して欲しいと要望があった。

中村健次監督から、オリンピックの競技分析を含め、コーチの評価もしていきたいと思っていると回答があった。

平松理事から、オリンピックに出場している方たちは、大学生で活動していた方がメインになっている。今後オリンピックの種目が、どのように変化するか分からないなか、学生はスナイプ、470で今後も活動していった方がいいのか、JSAFとして考えなければならないと発言があった。

望月常務理事から、リオオリンピック以降5年間オリンピック強化委員会が、やって来たことがJSAFのレガシーになる。今後、どのような体制なるかわからないが、今までやってきたことを、しっかり記録しレガシーとして残して欲しい、個別のコーチからの総括も記録として残して欲しいと発言があった。

河野前会長から、各々の分析の中に、他の強豪スポーツがやっているモデルを参考に国際大会を招致し海外の選手と競い合う機会を増やし選手強化、運営体制の強化を図るために行ってきた。新型コロナウイルスの関係で選手にレースブランクが生じ東京オリンピック際は自信の無い走りのように見えた。多くのメダルを獲得したヨーロッパ勢は安全な地域で合同練習など行った結果ではないか。日本勢は今まで強化して

きたことが、なぜ本番で出来なかったのか分析していくべきだと思うと発言があった。

児玉監事から、大会としては成功したと思っている。後世にレガシーとしてオリンピック招致が決定してから、実際の大会に至るまで多くの出来事があった。当初の若洲開催案、若洲から江ノ島への変更、定置網撤去問題とそれにかかわるワールドセーリングとの折衝、地元との調整、在江ノ島艇移動問題など多くの難問に JSAF 内外の多くの方々が関わったと思う。本大会の成功は課題や困難を一つ一つ乗り越えていった結果であろうと思っている。そうした課題克服の経緯についての記録を、次の時代を担う方々へのレガシーとして残していただきたい。今回も 1964 年オリンピックに際し作成された、定置網についての協定書の存在があると言われながら、そうした資料が残されていなかった、実態がありました。次の機会があるかどうかは分かりませんが、記録が残されることで今後の様々な検証が可能になるかと思えます。形式についてはこだわる必要は無いと考えている。関係の皆様議事録、メールでの折衝記録、お金の流れ等を整理し、のちに参照できるよう纏めていただくと良いのではないかと、JSAF の公式としての報告書は必要だと思うと発言があった。

桑原理事から、今までも HP に沢山の資料を出しているの、そのような物のまとめと言う形になると思うと回答があった。

望月常務理事から、蒲郡で開催されたワールドカップの報告書が非常に良かったので、そのような報告書を作成すべきと発言があった。

河野前会長から、報告書はあるに越したことはないが、簡単に作れるようなものでもない。現在ある資料などを、もう一度見直して、どこまでの物が作れるか調べて、担当などをしっかり決めてからにしたほうがいいと発言があった。

川北専務から、どこまでの報告書が出来るかも合わせて桑原オリンピック準備副委員長へお願いすると発言があった。

## 6) オリンピック準備委員会報告

桑原副委員長から、NTO、ボランティアとして様々な方にご協力いただきありがとうございました。本日をもって副会長を辞任するが、2013 年のオリンピック招致が決まった直後に河野前会長から、声が掛かり準備委員会を組織して欲しいと頼まれ、日本に居ながら海外のトップ選手と競える環境、運営体制の強化、ボランティアスタッフ集めを行ってきた。オリンピックに出場した選手たちはコロナの関係で手ごたえが 2 年前と違うと感じながらのレースだったのではないかと感じた。運営役員につい

ては、コロナ禍でも練習を頑張ってください、陸上、海上ともに非常にいい運営を行ってくれた。残りのタスクも出来る限り頑張ってください、皆さまお力添え宜しくお願い致しますと報告があった。

#### 7) 障がい者セーリング委員会報告（三重全スポ大会及びクラス分けシステムについて）

高間障がい者セーリング委員長から、障がい者セーリング委員会報告があった。

①第21回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」オープン競技（障害者セーリング競技）の今年度開催中止について、三重県知事の記者会見が8月21日開かれ、新型コロナウイルスの感染拡大により「三重とこわか国体」及び「三重とこわか大会（第21回全国障害者スポーツ大会）」を中止すると発表があった。日本スポーツ協会、日本障害者スポーツ協会など関係各所との調整に入り、完全なる中止か、延期ならば6年後の2027年の開催で調整する。これより予定されていたオープン競技も今年は中止となった。これまでの「全国障害者スポーツ大会」では、障害者のセーリング競技は行われておらず、今回が初めての大会になるはずだった。この大会では、視覚障がいのある人たちだけのシングルレースも予定しており、関係者の間では注目されていた。

②クラシフィケーション作業部会について、障害者スポーツにおいては個人の障害が競技に対し出来るだけ影響をおさえ、平等に競い合うために「クラス分け＝クラシフィケーション」があり、この制度は各競技団体で統括する必要がある。現在、JSAFにはこのクラシフィケーションに関する組織等はない。今後、ワールドセーリングランキングポイントが付けられる大会を国内開催（日本の大会を世界に知ってもらうために）するうえでも必要な組織となる。このシステムの年度内構築を目指し「クラシフィケーション作業部会（仮称）」を組織し、対応する方向で検討する。システム構築には、JSAFの各グループ、各委員会からの協力も必要不可欠と考えている。改めて、関係委員会等にはご連絡、ご相談を申し上げ進めていきたいと報告があった。

#### 8) レースマネジメント委員会報告（公認申請等進捗状況一覧他）

大庭レースマネジメント委員長から、レースマネジメント委員会報告があった。

無事にオリンピックが終了した御礼があった。新型コロナウイルスの関係で、大会を延期や中止する大会が多いので、今後どうなるかわからないが、実施できるレースは実施していただきたいと発言があった。

#### 9) ルール委員会報告

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

新型コロナウイルスの関係で大会中止が多い為、ジャッジ、アンパイアの資格要件をルール委員会の判断で緩和措置をしてきたが、本年も難しいので、追加の緩和措置を行う予定である。上告否認の申請が出てきて承認したと報告があった。

#### 10) 国体委員会報告（三重国体ならび栃木リハーサル大会中止）

黒川国体委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。

新型コロナウイルスの関係で緊急事態宣言が発令されたため、三重国体、栃木リハーサル大会が中止になった。中止になった国体は 6 年後に開催されると言うルールになった。今月中に 6 年後に開催するか、完全に中止かの判断があるが、現状は未定との発言があった。

#### 11) 普及指導委員会活動状況報告

公認指導者養成講習会（JSPO 助成事業）、日本財団「海と日本プロジェクト」、バッジテスト検定制度の見直しについて報告があった。

#### 12) 外洋常任委員会（フラッグリレー総括）

菊池理事から資料に基づき、外洋常任委員会報告があった。

5 年間にわたりフラッグリレーを行い、本来は東京をゴールに行っていたが、新型コロナウイルスの関係で不可能となり、オリンピックのオンライン壮行会での披露がゴールとなった。HP で、すべてのフラッグリレーの報告書をアップしているので、ご覧ください。最後に、フラッグリレーに係わった皆さん、選手への激励サインをしていただいた方々に御礼があった。

#### 13) e-Sailing 委員会報告

尾形 e-Sailing 委員長から資料に基づき、e-Sailing 委員会報告があった。

オリンピック・バーチャルシリーズ第 3 戦「ナクラ 17 級」で、木暮俊貴選手が総合 7 位と健闘した。実際のオリンピック選手も参加していた。8 月 21～22 日に全日本を開催、木暮俊貴選手が昨年に続き 2 年連続で優勝した。ネーションズカップ（国別対抗戦）については、U21 要件（男性または女性 1 名含む）の公示があった。現在、ワールドセーリングに諸条件を確認中で、確認完了次第ワールドセーリング公示に従い、2021 日本ナショナルチームの代表選手 12 名を選出し、ネーションズカップに参戦予定と発言があった。

#### 14) インターハイ/JOC ジュニアオリンピックカップ報告

中村理事から資料に基づき、インターハイ/JOC ジュニアオリンピックカップについて報告があった。

インターハイ/JOC ジュニアオリンピックカップとも和歌山県からのバックアップを受け万全の体制で大会を滞りなく開催出来たが、新型コロナウイルス感染症の感染について、インターハイに参加された 1 県の複数校から、大会後 7 日後に参加選手 3 人の感

染が確認（感染経路は不明）されたと和歌山県教育委員会に報告があった。感染経路は不明これを受け、インターハイ参加し接触の可能性がある JSAF ホープ合宿に参加している選手 2 人について直ちに近隣の連携病院で PCR 検査を実施し陰性を確認した。なお、合宿参加者は合宿参加前に PCR 検査を行い、陰性確認後に参加、合宿中は連携病院の指導の下、参加者全員が抗原検査を実施し、陰性確認を行ったと発言があった。

#### 15) 壮行会実施報告

川北専務から資料に基づき、壮行会について報告があった。

壮行会への寄付金は 150 万円の募集実績になった。受け入れた寄付金は、各寄付者の意向に沿いセーリング競技日本代表選手団支援に使用した。オンライン壮行会の費用は、オリンピック準備委員会の費用であるとの発言があった。

#### 16) 山崎名誉会長偲ぶ会について

中川顧問から、山崎名誉会長偲ぶ会を計画している。開催日は 12 月 5 日（日）14 時から開始予定としている。場所は未定だが、来週中に決定する。新型コロナウイルスの関係で、オンライン開催になる可能性もあるが、中止・延期をしないで実行していただきたいとご遺族からの要望もあると発言があった。

#### 17) 海洋環境クリーンプロジェクト

大村常務から資料に基づき、海洋環境クリーンプロジェクト報告があった。

湘南乃風が加山雄三応援団長の音色も入れて作成した「湘南乃（海その愛）」という曲をリリースしたのを記念して、加山さんの呼びかけで湘南乃風、加山事務所、JSAF で 7 月 17 日（土）江の島片瀬東浜海岸にてビーチクリーンを行ない、マイクロプラスチックの啓発を行ったとの発言があった。

#### 18) 事務局報告

寺澤事務局長から資料に基づき、JSAF 事務局報告があった。

7 月末現在のメンバー登録数、8 月に末納会員の方に通知を送り現在では 8,300 名程度になっている。6 月評議委員会議事録、理事会の議事録についてご確認ください。2021 ヨコハマフローティングヨットショーが 10 月 1 日～3 日に開催される。9 月 12 日まで緊急事態宣言が出ており、テレワークを実施すると発言があった。

#### 19) その他

平松理事から、河野会長を名誉会長になっていただけないかと提案があった。

川北専務から会長は退任されたが、現状は現職の理事なので、然るべきタイミング名



誉会長になっていただければと思っていると回答があった。

2021年 9月 4日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 高 間 信 行

議事録署名人 理 事 宇 都 光 伸

副 会 長 桑 原 啓 三

副 会 長 中 川 千 鶴 子

副 会 長 馬 場 益 弘

副 会 長 中 澤 信 夫

専 務 理 事 川 北 達 也

常 務 理 事 大 村 雅 一

常 務 理 事 富 田 三 和 子

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保

監 事 紙 谷 雅 子